

全国水平社創立90周年記念シンポジウム

「受け継がれる」

全国水平社の精神

全国水平社創立90周年を記念して2月18日、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンで「全国水平社創立90周年記念シンポジウム」がひらかれ、約100人が参加した。

はじめに、寺木伸明・全



全国水平社の思想から国際連帯にいたる動きについて講演されたシンポジウム

国部落史研究会代表からあいさつがあった。つづいて「写真でみる水平社の人びと」と題して渡辺俊雄・同会よりスライドを使った写真の説明がおこなわれた。写された場所や背景のほか、入り込んでいる人物特定もされ、幅広い写真説明



全国水平社の人々を写真で説明

今後の日程

- 3/1 事務局会議
- 3/3 全国水平社創立90周年集会・レセプション (京都)
- 3/5 差別街宣に対する損害賠償請求第3回高口頭弁論(奈良)
- 3/13 岩橋夜間学校公開授業 (岩橋児童館)
- 3/23 狭山ビラ統一行動
- 3/27 岩橋夜間学校公開授業 (岩橋児童館)
- 3/30~31 第69回全国大会 (大阪)

がおこなわれた。つぎに「受け継がれる全国水平社の精神」連帯と絆を求めて」と題して、寺島一雄・立命館大学、朝治武・大阪人権博物館、金仲燮(キム・ジュンソプ)・韓国慶尚大学から全国水平

社の思想や国際連帯、韓国の衡平社(ヒョンピョンサ)とのつながりについて講演があった。

「水平社宣言」を起草した西光万吉は、部落改善・同情融和運動が展開されるなか「自殺賛美論」「部落絶対避妊論」に陥っていた。しかし、同郷の阪本清一郎と出会って少しずつ意識に変化があらわれ、全国水平社創立に大きな役割を果たしたと説明された。

また、全国水平社が創立

第34回 全人保

皆保育、就学前保育をすすめるよう奈良

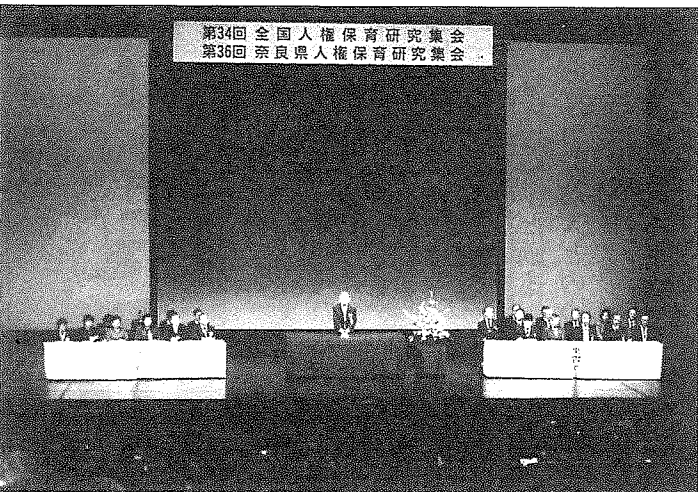
1月21日、22日の両日、第34回全国人権保育研究会が、参加者400人という規模で、奈良市の「なら100年会館」をメイン会場

場としてひらかれた。本集會に和歌山県連から、行政担当者・保育士・支部保育など25人が参加し、学習・交流を深めてきた。

第1日目の

全体集會では、開会行事のあと、基調提案がおこなわれ「社会の変化や少子化・児童虐待など、子どもを取りま

く環境の悪化に對し、これまですすめてきた『同和保育(人権保育)』の精神にもと



歓迎あいさつする川口正志・奈良県連委員長

された翌年に結成された衡平社との国際連帯について「人類最高ノ完成」を謳った全国水平社と「人類愛」を創立趣旨に取り入れた衡平社は、被抑圧民族としての通信や交流の域を超えることはなかった。しかし、被抑圧民族として互いに影響し合っていたことは、大会ポスターに描かれた旗や勇士の姿、生活権の奪還などを謳ったスローガンなどから推測できると話された。

「皆保育」「就学前保育」としての保育をすすめるよう」という基調提案がなされた。基調提案後の記念講演では「地球のステージ」と題し、桑山紀彦・医師から、世界の紛争地域における子どもたちの現状や東日本大震災の復興活動など報告があった。

第2日目は、子育てや保育にかかわる8つのテーマに分かれて分科会がおこなわれ、今日的な保育の課題や実践報告をもとに熱心な議論が交わされ本集會を終えてきた。

参加者や担当事務局から「同和保育から人権保育」という名称となることで、幅広い人権の視点が生まれ、議論の内容やとりくみが、一般的な子育てや保育ということになっていくように感じられる。また、これまですすめられてきた部落差別による課題解決と

全女活で講演

複合差別もジェンダーと大きくかわり

第68期第1回全国女性活動者会議が2月12、13日、佐賀ワシントンホテルプラザでひらかれ、県連から女性部より2人が参加した。

中央本部を代表して組坂繁之中央執行委員長は、福島原発事故によって新たな福島差別も起こっている。この実態を地元的女性たちに伝える。また、この2日間中身の濃い会議にしてほしいとあいさつをした。

つづいて、地元の佐賀県連、井上隆司・執行委員長より歓迎のあいさつがあった。

学習講演「ジェンダー」の問題を考えると題して、谷口真由美・大阪国際大学准教授より、ジェンダーを考えると、マイノリティとマジョリティがあり、単に女性の権利を話すだけでなく、複合差別もジェン

第68期第1回全国女性活動者会議が2月12、13日、佐賀ワシントンホテルプラザでひらかれ、県連から女性部より2人が参加した。

中央本部を代表して組坂繁之中央執行委員長は、福島原発事故によって新たな福島差別も起こっている。この実態を地元的女性たちに伝える。また、この2日間中身の濃い会議にしてほしいとあいさつをした。

つづいて、地元の佐賀県連、井上隆司・執行委員長より歓迎のあいさつがあった。

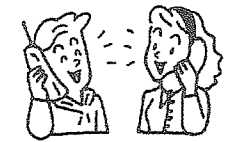
学習講演「ジェンダー」の問題を考えると題して、谷口真由美・大阪国際大学准教授より、ジェンダーを考えると、マイノリティとマジョリティがあり、単に女性の権利を話すだけでなく、複合差別もジェン

してとりくんできた「同和保育」の視点が曖昧になっていくようにも感じられるなどの意見が出された。



福島ではあらたな差別があると訴える組坂委員長

支局からのお知らせ



お気軽にお電話を!

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思ひます。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎! 写真を添えて支局までお送り下さい。

(発送先) 〒640-8314
和歌山市神前405-3
部落解放同盟県連合会内
解放新聞和歌山支局宛